



勇壮な舞、一挙30頭

高山市荘川町で「日本一の連獅子」

三十頭の獅子がそろって舞う「第二十回ひだ荘川ふるさと祭り」(荘川イベント実行委員会主催)が十四日、高山市荘川町新洲の荘川の里で行われ、約八千五百人が「日本一の連獅子」の勇壮な舞に見入った。

あうんの呼吸 来場者見入る

連獅子は、地域が一つになって盛り上がるように祭りの初回から、町内六つの神社に奉納される獅子舞を集めて披露している。

獅子頭などがそれぞれ個性的な獅子が、石垣の上に一列になって登場。あうんの呼吸で繰り広げられる舞に、来場者が大



舞い手5人の獅子2頭が来場者を楽しませた新島の「獅子木遣り」

きな拍手を送った。この後、神社の新築などの特別な祝いごとでしか見られない伝統芸能を、地元住民と、同町と縁のある東京都伊豆諸島・新島の島民が互いに披露。



「ひねり踊り」を披露する子どもたち=いづれも高山市荘川町新洲、荘川の里

えて「飛騨んじい」と慕われた。舞い手が五人の

雌雄二頭の白い獅子に歌に合わせて優雅に舞う「獅子木遣り」を披露。来場者の頭を優しくかんで回り、幸福を振りまいた。

住民が披露したのは、武者や奥女中などがそろって行列だが、大名はいない「ひねり踊り」。荘川中学校の全校生徒三十一人が奏でるおはやしに合わせて、花がさなどで着飾った荘川小学校の全校児童六十人と住民計百人が踊りながら進み、来場者の目を楽しませた。